



東京23区・特別区長会

## 全国連携シンポジウム

～遠隔自治体間連携の可能性と展望～

(平成28年4月26日開催)

# 全国連携シンポジウムの 開催に寄せて より抜粋

東京大学 大森 彌 名誉教授

『東日本大震災のとき、特別区は、被災自治体の応援のために自発的に動いた。遠隔地であるがゆえに「スクラム支援」を展開した。その体験は、自治体間連携が、一部事務組合とか広域連合といった既存の連携とも、姉妹都市のような親睦的な連携とも違って、遠隔自治体間でも有効であることを実感させたといえよう。そこから、大災害発生のような非常時に応援・受援の関係が円滑に機能するためにも、平時における遠隔自治体間の連携活動が大切ではないかという認識が生まれた。東京の特別区は、全国の市町村と、さまざまな内容と形態の遠隔自治体間連携の可能性を追求し始めている。この努力によって特別区の存在価値に新たな次元が加わるに違いない。』

シンポジウムでいくつか提起されたテーマの一つが災害への対応であり、東日本大震災等の被災地への支援はもちろん、特別区の持つ防災対応のノウハウを共有していくプラットフォームとして、全国連携プロジェクトの枠組みを活用していきます。